

みなとオアシスくだまつ☆笠戸島の伝説と魅力

「星降るまち」 くだまつ

下松の地名には、星に関する由来があります。推古天皇の頃（西暦595年頃）鷲頭庄青柳浦の松に大星が降り、7日7夜の間光輝き「百済の皇子がこの地へやって来る」というお告げがされたという伝説が残っており、「星が降（くだ）った松」が「降り松」となり、「下松」となったといわれています。また、その伝説に関連しているかのように、三年後に百済の琳聖太子が渡来し、以来、百済との交易が開けたということから、百済と交易する津「百済津」がなまって「くだまつ」となったという説もあります。


 推古天皇の頃の松の子孫
鼎(かなえ)の松

 「下松発祥の地、七星降臨鼎(かなえ)
の松」という文字を刻んだ石碑

豊かな自然に恵まれた風光明媚な島「笠戸島」

『笠戸島（かさどじま）』は、星降る伝説のある下松市の南西部に位置し、三日月形をした島で、瀬戸内海国立公園に含まれます。本州から鮮やかな赤色の笠戸島大橋を渡り、森林を縫って海岸線の道を行くと、瀬戸内海を望む美しい海岸風景が現れます。同時に、島の形状から入り江が多いことからゴツゴツした迫力ある岩肌も感じることができ、身近に大自然を感じられる観光スポットとしても魅力的な島です。



代表施設 国民宿舎 大城（おおじょう）



島の中心部の笠戸湾を見渡す岬の高台にあり、客室や展望露天風呂からは瀬戸内海の多島美や沈む夕日を眺めることができます。

構成施設 はなぐり海浜浴場・海上遊歩道



はなぐり海浜浴場では、夏に手作りイカダで競い合う、マリンイカダレース大会が開催され、島全体が大きな盛り上がりを見せます！



「はなぐり海水浴場」の南側にあり、潮風に吹かれながら散歩ができる全長300mの海上遊歩道。海に乗り出した突堤では釣りが楽しめます。

笠戸島の名産「笠戸ヒラメ」

地元で養殖される笠戸ヒラメは、肉厚で脂がのり、ほのかな甘みの特徴の、ふぐに匹敵する下松自慢の高級食材です。温暖な気候と良質な水によって育てられた笠戸ヒラメは、身がひきしまり、コリコリとした歯触りを楽しめます。



笠戸ヒラメ

天然はもちろん養殖も味が良く、天然モノより美味と評判で、四季を選ばず頂くことができます！



笠戸ヒラメ料理



笠戸ヒラメせんべい

刺身、焼き物、煮物、揚げ物など、どの調理法とも相性が抜群です！



笠戸ヒラメ刺身